

速報展名 『和歌山市埋蔵文化財発掘調査情報2017』

紀州藩の家老屋敷を掘る ～安藤・水野家上屋敷の発掘調査～』

展示期間 平成29年7月19日（水）から8月8日（火）まで

場 所 和歌山市役所1階 市民ギャラリー

時 間 平日（月～金） 8時30分～17時15分

ただし、木曜日は19時まで

概 要

今回紹介する発掘調査地を、現在の地図と江戸時代の和歌山城を描いた絵図とを重ね合わせてみると、和歌山城跡第30次調査は紀州藩付家老安藤家、第32次調査は紀州藩付家老水野家の上屋敷地内にあたります。

両家は三の丸の中でも、和歌山城内と城外を区画する京橋御門に隣接し、また大手道に面した重要な位置に屋敷を構えています。このことから、重責のある家格でことが分かります。17世紀中頃の『和歌山古屋敷絵図』から19世紀中頃の『和歌山屋敷絵図』までは、安藤・水野家屋敷地の規模は変化するものの基本的な位置を変えずに描かれていることから、江戸時代を通して屋敷替えは行われていないようです。また屋敷地の所有者を記した文字の方向から、両家の上屋敷は大手道に面して表門があったと考えられます。

【安藤家上屋敷地の様相】

今回の調査では、17世紀代の建物に伴うとみられる内部に礎盤を入れたピット列などがほぼ真北に軸をとる方向で見つかりました。18世紀頃には大規模な土木工事が行われ、屋敷内部に石組暗渠（溝）がめぐらされます。石組暗渠は少なくとも3度の造り替えがみられ、調査区北西端部で北に向かって屋敷地外の方向に延びることがわかりました。

出土遺物には、安藤家の家紋である下り藤を瓦当文様に用いた軒丸瓦や鬼瓦を初め、生活用品などが出土しました。



安藤家の家紋瓦（下り藤紋）

【水野家上屋敷地の様相】

今回の調査地では、江戸時代前期から幕末にかけて、主に調査地北側において3度にわたる整地された痕跡や、石列、石組溝、柱穴、瓦積み井戸などの遺構がみつかりました。遺構の中で、江戸時代後期から幕末の生活面において、大手道に平行して南北方向に並ぶ2条一対の礎石列がみつかりました。この遺構は、江戸時代の城下町絵図には描かれていないため、屋敷地の境を区画するものなどではなく、屋敷地内部に存在した廊下もしくは目隠し塀のような構造物を支えた礎石の可能性が想定できます。

出土遺物には、水野家の家紋である沢瀉紋の軒瓦を初めとし、生活用品などが多数出土しています。



水野家の家紋瓦（沢瀉紋）

＝次回 第2回 速報展 開催予告＝

速報展名 『和歌山市埋蔵文化財発掘調査情報2017

井辺・津秦Ⅱ遺跡の発掘調査

～縄文時代から鎌倉時代にかけての集落のうつりかわり～』

展示期間 平成30年1月29日（月）から2月6日（火）まで

場 所 和歌山市役所1階 市民ギャラリー

時 間 平日（月～金） 8時30分～17時15分